

日本声楽発声学会

The Japan Association for Research in Singing



学会通信

2011年

9月30日

第21号

会員の皆様へ

理事長 米山文明

東日本大震災の今夏も猛暑、豪雨、台風と自然の暴力は容赦なく人を襲い、政治、行政の無能、無策はさらに納税者に追い打ちを加えています。私達ひとり一人が、何時、何を、どうすればよいのか思わず途方に暮れる空虚さを感じます。会員の皆様もそれぞれの環境、立場で大きな苦難を強いられておられることと拝察します。

そんな中、私たちのところに一通のmailとCDが届きました。差出人は「ワルシャワオペラカメラータ」(WARSAWA CHAMBER OPERA)の総支配人、Krzysztof Kur氏からで、日本の皆様に対する心のこもった慰問文と、罹災された日本の子供達を慰めるために、ポーランド最高のピアニスト達が演奏したF・ショパンのピアノ小曲集のCDと、その売り上げ金を日本に寄贈するというメッセージでした。突然のことに私も驚きましたが、約2年前(?)、同オペラ団が来日したとき、何人かの歌手の治療を受け持ったのが私だったと書かれておりました。人間同士の暖かい心の交流の貴さに私も感動しました。そのCDのレーベルには赤字で大きく「日本がんばれ」と日本語で書かれています。いつか機会がありましたらこのピアノ小品集を皆様に披露します。

5月例会の直後6月上旬、アメリカのメトロポリタンオペラの来日公演がありました。それに同行した音声専門医、Anthony Jahn氏に講演依頼し、本学会員と会食懇談する機会がありました。小林武夫理事のお骨折りで実現しました。当日の内容の詳細は学会誌次号(3号)に報告される筈です。Jahn氏は、大変温厚な紳士で、学問的にも、人間的にも立派な人格者で、臨床的な考え方、治療法などについて私達と意見が一致する部分も多く、楽しい一夕でした。

研究部門報告の一部として私事で恐縮ですが、一昨年私がバーゼル大学とミュンヘンで講演した「音カメラ」に関する問い合わせが西欧諸国から来ております。(共同研究やホームページでの共有申し出など)。例えばポツダム大学のDr, Frank Bittmann教授、スウェーデンのJohan Sundberg教授、ウィーン大学のDr, Matthias Bertsch教授、その他)などです。今後の進展が楽しみです。

演奏部門の活動も本格的に始動しました。新しい試みの「歌の集い」シリーズでは、会員の皆様の参加者レベルも高く、加えて第1回のイタリア系には淡野理事、第2回のドイツものでは平松理事など、現役理事の格調高い演奏もあり大盛会でした。始めたばかりで、細かい部分に若干の検討事項もありますが、順調なすべり出しだと思います。それにしても率先して活動の先頭に立たれる演奏部の各理事の積極性に感謝と敬服です。

事務局から

新事務局員

工藤真理子女史 紹介

事務局次長 河合孝夫

この度、西村さんの後任として工藤真理子さんが新事務局員になります。

工藤さんは、早稲田大学第一文学部仏文学科を卒業され、NHKに入局後は教育学校放送部音楽班でテレビやラジオ番組制作。その後フリーとなりNHK、NHK教育テレビ、BS衛星放送、日本テレビ、フランス第二チャンネル、アメリカPBSなどと多くの番組制作をなさいました。代表的な番組には、「歌いましょう・聞きましょう」「音楽の世界」「Chasse aux Tresors」「ピーター・ホロコスの世界」「新人類と呼ばれる若者達」「安野光雅とファール昆虫記」「ピーターラビットの田園から」「BS美術館」「秋の院展」「阪神淡路大震災」「避難所の死はなぜ起きたのか」「宮城まり子とねむの木学園の10年」「遺伝子」「脳死移植」「プルトニウム大国」等があります。

また、群馬県、昭和村村立50周年記念コンサートやドイツに於いて日独合唱団ジョイントコンサートの企画と実施などもなさっています。

工藤さんは、フランス語、英語、ドイツ語にもよく通じておられ、音楽を通して国内外に知人も多いとの事、この方面でも本学会に貢献される事でしょうし、また、事務局員の仕事を通して、会員の皆さんとの仲介役としての活躍を期待しています。



教育部門もこれまでの実績をふまえた上で、若干マンネリ化の傾向のみられる方式の見直しと、全国規模での実践方法の具体策を検討中です。ご意見をどしどしお寄せ下さい。

事務局も川上、河合両理事の大活躍で大改革が進行中です。

終わりに学会発展のため、会員の皆様の例会の研究発表と、学会誌への積極のご投稿をお願いします。皆様のご健康とご活躍を祈念して。

Krzysztof Kur氏の手紙原文から

I hope that you are safe and everything is going better now in Japan. We still are looking for good news from your country. What we saw in TV after this earthquake in March it was really horrible. We pray for the death-roll in this disaster also for all your Great Country.

As a sign of our Solidarity I would like to send you a special CD which was published in Poland. There is music of the greatest polish composer -Fryderyk Chopin played by the best polish pianists. All profits from selling this CD will be given for Japanese children-victims of the disaster. I hope you will enjoy this CD.

西村事務局員退職へ

事務局長 川上勝功

ほぼ27年もの長期に亘り、あたかも日本音楽発声学会の顔のような存在として、理事会にも会員の皆様にも全身全霊で務めてくださいました西村事務局員は、今回の新しい事務局組織の立ち上げにあたり、この8月末日をもって勇退されました。永年に亘り当学会を支えてくださった功績に対し、紙上をお借りしまして、理事長はじめ理事一同、心から感謝し、御礼申し上げます。ありがとうございました。

新事務所開設

事務局次長 河合孝夫

9月より、池袋駅西口（東京芸術劇場がわ）から徒歩7分のところに新事務所が開設されました。

本学会の自由になる事務所を持つことは長年の懸案でしたが、経済的な問題が大きく、形の上では音楽之友社、実質は西村前事務局員のお宅に間借りという状態を続けて参りました。しかし、学術団体の事務所が個人の住宅にあるのは如何なものかという意見もあり、米山理事長の果敢な判断で新事務所開設にこぎ着けました。

経済的な問題は、概算ではありますが、報酬方法の工夫と新事務局員の採用により、これまでとほぼ同じ予算で運営できる見通しがつきました。

これからは、新事務所を基盤にしてダイナミックな運営活動を行うつもりです。

新事務所

〒171-0014

東京都豊島区池袋2-71-1

マンション コルディア 204号室

Tel/Fax 03-5951-2115

e-mail : jars@hotmail.co.jp

なお、事務局の移転を円滑に行うため、しばらく間、河合孝夫理事が事務局員を努めます。

電話対応できる時間帯は月曜から金曜の10:00-17:00の間です。

非通知の電話番号に関してはこちらから連絡できませんので、お気をつけ下さい。

学会事業から

Dr Anthony Jahn 口演会

担当理事 小林武夫

6月7日夕方、国際文化会館で、Dr JahnのCare of the professional voiceと題する口演会が行われた。NYのMetropolitan Operaの座付き耳鼻科医として来日した機会に、東京でのオペラ公演の前日に、口演を依頼したのである。私は、NYのRoosevelt 病院の音声外来を時々訪れる。そこで、博学で温厚な彼と知り合った。ハンガリー生まれ、両親は音楽家。9歳のときハンガリー動乱に会い、一家はスイスを経由して新大陸に逃れたという苦労人である。オペラの引越し公演は、歌手、オケ団員、舞台装置の組み立て職人まで総勢400人が来日した。彼は、歌手の喉だけでなく、400人の団員の健康に独りで対処しなければならず、携帯電話が鳴り止まないの苦労があるとこぼす。急病の1人を東京の病院に入院させ、毎日、見舞っていた。

口演は、英語。専門的内容をやさしく解説した。熱心な質疑応答もあり、時間を30分もオーバーした。参加者25人。会費は3000円。口演後、皆で和食弁当をいただいた。彼は美しく盛りつけられた弁当に感激して写真に撮っていた。我が学会はpoorで、彼には十分な謝金を出せなかった。感謝状（和文、米山理事長のサイン付き）を、理事長の手から渡し、とても喜ばれた。記念品として、事務局西村さんの発案で、日本の扇子（夫婦用2本セット）をつけた。1000年に一度の大震災直後の公演の苦労をねぎらい（主演級の歌手2人は来日をキャンセルした）、「この扇子は、昔から日本の紳士淑女の必需品であり、日本の電力不足にはdo-it-yourselfエアコンとなる。NYで使って日本を思い出してほしい」と付言した。次の公演は4年後という事で、4年後の口演を依頼しておいた。

「歌の集い」の報告

演奏部門委員：

淡野弓子 川村英司 豊田喜代美

第1回ラテン系、第2回ドイツ系の「歌の集い」が満員のお客様の中で終了しました。

演奏会場は和やかな雰囲気の中にも、終始、凛とした清冽な空気に満たされており、声楽発声学会会員の日頃の真摯な研鑽の成果発表とその「分ち合い」が粛々と成されていることが感じられます。この「歌の集い」はシューベルティアードに見られる西洋クラシック音楽の伝統を演奏者も聴取者も共に体験する場となっている可能性があります。皆様、「歌の集い」を活用して研鑽を積むと同時に大いに演奏会を楽しみましょう！

夏季研修会報告

事務局長 川上勝功

平成23年8月21日(日) 11時～18時
場：東京芸術大学音楽学部 第2ホール

今年は、3月11日の大震災のこともあって、夏季研修会は取り止めにしようと、一度は理事会で話し合われましたが、米山理事長の「せめて一日だけでも東京で開催したいものです」の一言で決定となりました。

もともと震災以前にハイルマン先生からは快諾を得ておりましたが、折角東京で開催されるのに一日だけのワンプログラムで終わってしまうのは、いかにも勿体ないという意見もありました。しかし、いつ何時大きな余震が来ないかとも限らないので、結果としてハイルマン先生の公開レッスンだけと言うことになりました。

当日は当然のごとく、東京近郊から来られた方が圧倒的に多かったようですが、受講者も含めて、名古屋、大阪と関西方面からかなりの方々が来ておられました。聴講者は優に80人を越えていました。

前日の夜まで鹿児島でコンクールの審査をしていて、当日一番の飛行機で東京に来られ

たハイルマン先生は、風邪で熱があったにもかかわらず、7人の受講者に、それはそれは精力的に最後まで素晴らしいレッスンをしておられました。詳しいレッスンの内容については、次号の学会誌に掲載させていただく予定ですので、まずはご報告のみとさせていただきます。

今後の予定

11月例会のお知らせ

ニューコーナー

(研究発表後の11時5分から)

『学会用語についてのディスカッション』

本学会では、用語の概念を統一し議論のすれ違いをなくすため、昨年「声楽用語集」を出版しました。この用語集に関する皆様のご質問を伺い、ご説明し、また、今後どのような用語解説を補充すべきか、ご意見を伺うコーナーです。米山理事長を総司会に、各分野の責任者がお答えします。用語集をお持ちの上ご出席下さい。

昼食後の楽しいなコーナー

『特別講演』

岡村喬生さん(バス歌手)をお招きします。

岡村さんは、誰もが知る我国を代表する国際的バス歌手。しかも、そのキャリアが示す通り、歌手だけでなく、話しても書いても人を引きつける魅力を持つ稀な才能を持つ方。どんな特別講演になるのか…。ワクワク！

『現役声楽家の演奏とお話』

田中 勉さん(バリトン歌手)の歌とお話を聞きます。

「悪魔め鬼め」(リゴレットより)、團 伊玖磨《五つの断章》全曲、トスティの歌曲などをお歌い下さる予定。

田中さんは、ウィーンに留学歴を持つ大阪音大教授。日本では関西中心に活動なさっているようですが、国際的なオペラキャリアもある、今、最高に脂ののったバリトン歌手。声を聞くのが楽しみです。

教育部会のあり方について

教育部会チーフ 小川昌文

会員の皆様にはますますご健勝のことと存じます。教育部会は本学会における声楽教育の研究と実践を充実させ、その重要性を周知させることを目的として、これまで14回各例会の前日に開催され、優れた発表と活発な議論が行われて参りました。このたび、教育部会はその当初の目的を達成したと判断し、発展的解消を行うことが理事会で決定されました。今後は、例会において声楽教育関連の研究発表等が行われるとともに、地方などにおいて学会主催によるワークショップなどを行う予定です。これまでの会員の皆様の支援にし厚く御礼申し上げます。

お知らせとお願い

「歌の集い」

演奏者の募集のお知らせ

演奏部門委員：

淡野弓子 川村英司 豊田喜代美

このたび当学会では理事会演奏部門の提案により、初めての試みとして、「歌の集い」の実施を計画いたしました。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

○「歌の集い」の概要

「歌の集い」は会員同士が歌う場を通して知り合い、懇親を深め、歌唱技術向上を図ることを目的とし、演奏に対しての研修、指導、演奏後の批評などは一切行いません。

また「歌の集い」を通して、より多くの会員の皆さまに定期演奏会へ関心を持っていただくことを期待し、「歌の集い」を本学会主催の定期演奏会オーディションの前段階として位置づけます。

○「歌の集い」の実施詳細

*使用時間には練習と本番が含まれます。

- 第1回 2011年7月23日(土)
17:30~21:30 ラテン系作品
- 第2回 2011年9月4日(日)
13:00~17:00 ドイツ系作品
- 第3回 2011年12月25日(日)
13:00~17:00 日本歌曲作品
- 第4回 2012年3月25日(日)
13:00~17:00 その他
(英国、ロシア、北欧等)

○場所：スタジオ・ヴィルトゥオーゾ
(大久保/収容人数約80名)

○募集要領

- ・資格：日本声楽発声学会会員
- ・募集：独唱4~6組、アンサンブル(一組2名以上)1,2組
- ・演奏時間：一組20分位
 - ・費用：会場費3万円~5万円(ピアノ使用料含む)及びその他実費1万円位(チラシ・プログラム・チケット作成)を演奏者で分担します。
- ・チケット：一枚2000円で販売します。
- ・演奏ご希望の方は次の事項を、事務局宛に御提出ください。

①住所、電話番号、(メールアドレス)、氏名、年齢、声域、略歴(200字程度)

②20分程度のテーマに沿ったプログラム

③伴奏者氏名

*伴奏者は演奏者をご用意ください。

- ・演奏者は基本的に受付順とし人数が満ちた段階で募集を打ち切らせていただきます。
- ・プログラム制作の段階で歌詞の原語と対訳を各自が用意し提出ください。

以上。皆さま、どうぞふるってご参加くださいませ。

学会通信の編集と

印刷方法の変更

事務局次長 河合孝夫

学会通信の編集と印刷を変えることになりました。

記事の企画、立案を理事会が行った後、事務局が原稿依頼をし、編集と印刷を事務局と書記がパソコンを使って作成することにいたしました。

こうすることで、会員の皆様のご意見をどんどん反映する事ができ、また、きめの細かい情報をお届けする事ができると思っております。

ただし、当分の間お見苦しい点多々でくるかもしれません。そのあたりは、今後の課題としてより良い紙面作りを工夫すべく努力してまいります。これにつきましても、皆様のご意見ご投稿をお待ちしています。

会員の力を改善に

(運営スタッフ募集)

私達の学会を組織的に運営するために、運営スタッフとして皆様のお力を貸し頂きたく、運営スタッフを募集します。

具体的には、例会、研修会等の受付スタッフ（女性）、机等の設営スタッフ（男性）、学会通信や学会誌の発送手伝いスタッフ（男女）です。些少ですが交通費程度の対価を考えています。また、スタッフのご意見を、今後の改善に生かそうとも思っています。

この会をよりよいものとするために、お力とお知恵をお貸し下さい。興味ある方は、事務局か河合理事にご連絡下さい。

本学会を、より健全で透明性を持ち堅実なものとするために、会員相互のアイデアとパワーを是非ともお貸し下さい。ご意見をお持ちの方は、事務局までご遠慮なくご連絡下さい。

会費の納入をお急ぎ下さい！

当学会は会員の会費で運営されています。現金がないと学会の運営がストップすることになります。

今年度になって半年が経ちますが、会費の納入者が現時点で約半数しかありません。このままでは、理事の皆さんに立て替えをお願いする事になりかねません。

まだ、会費未納となっておられる方は、一日も早く手続きをとってお納め下さい。よろしくお願いいたします。

お振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 記号 10000 番号 83585881

加入者名 日本声楽発声学会

三菱東京UFJ銀行 津田沼支店

普通預金 0393943

口座名 日本声楽発声学会 米山文明

事務局だより

学会誌、学会通信への投稿をお待ちしております。演奏会、出版、CD制作他、近況等を事務局までお寄せ下さい。

2011年9月30日

日本声楽発声学会 学会通信 第21号

発行 日本声楽発声学会事務局

東京都豊島区池袋2-71-1

マンション コルディア 204号室

TEL/FAX 03-5951-2115

e-mail : jars@hotmail.co.jp